



国民の森林・国有林

中部森林管理局

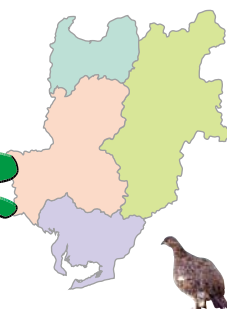
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



名古屋事務所：みどりのフェスティバル



北信署：森林環境教育用教材贈呈



岐阜署：国際森林年記念植樹祭



木曽署：森を歩く（森林散策）



各地で 国際森林年記念行事を開催

(P4～6に関連記事)

主 な 項 目	○ 新任幹部の紹介 P2
	○ 「国民の森林づくり」推進功労者へ長官感謝状を贈呈 P3
	○ 森林・林業の再生に向けた人材育成 P9
	○ 風景紀行 P10

新任幹部挨拶

◆新計画部長



宿利 一弥

このたびの五月十六日付け人事異動により計画部長を拝命いたしました宿利（しゅくり）でございます。

珍しい名字ということで、出身地をよく尋ねられますが、その昔、祖父が正統時代に九州（大分）から上京したようであり、私自身は東京生まれ東京育ちです。

これまでの職務履歴としては、九州管内、旧帯広、秋田及び林野庁ほかで勤務してまいりましたが、中部森林管理局の勤務は初めてです。中部森林管理局管内には、日本三大美林の一つである木曽ヒノキをはじめカラマツなどの森林資源に恵まれており、日本の屋根といわれる日本アルプスを含め変化に富んだ条件のもと、古くから、ある意味で人々の暮らしと密接な関わりを保ちつつ、これらの保全と有効利用が行われてきたと考えます。歴史と伝統のある中部森林管理局に勤務できますことは、大変光栄なことであると同時に、その責任についても身の引き締まる思いを感じている次第です。

できる限り早く管内の状況把握に努め、業務を遂行してまいりたいと考えており、そのためには、職員の皆様にお尋ねし、また教えていただくことも多々あらうと思っておりますが、どうかよろしくお願いいたします。

さて、自己紹介が先になりましたが、ご承知のとおり、マグニチュード9.0という超巨大地震による東日本大震災の発生翌日（三月十二日）には長野県栄村を中心に最大震度6強を記録した長野県北部地震が発生しました。被災された皆様方に対しまして、心からお見舞いを申し上げます。未曾有の大地震・大津波による甚大な被害に、原発事故が重なり、国難といわれる状況であり、復旧・復興に向けた取組が急がれるところでありますが、森林・林業分野においては、森林内の路網整備等を通じた森林施業のまとまりの確保、森林から産出される木材・木質資源を余すところなく利活用を進めるなど、我が国の国家的な成長戦略の一つとして、十年後の木材自給率五〇％を目指す「森林・林業の再生」に向けた取組を、着実に加速化させていくことが求められていると考えます。国有林野事業におきましても、例えば低コスト・高効率作業システムの普及に向けた民有林関係者との連携等、これまで森林管理局署等での事業実施を通じて蓄積してきた森林の管理・整備に関する技術力、知識や経験を活用するといった組織的な貢献

ができるよう、局における担当課・担当職員の皆様とともに取組に努力していきたいと考えており、どうかよろしく願っています。

結びに、健康で明るく風通しの良い職場づくりに向け、率先して取組んでいきたいと考えており、職員の皆様方におかれましても、業務遂行に関わる作業の安全確保はもとより、心身とも無理のない常日頃からの健康管理にご留意いただきますようお願いして、ご挨拶といたします。

◆宿利部長の略歴

生年月日 昭和33年9月17日

本 籍 東京都

略 歴 東京大学農学部林学科卒

(S58・3)

昭58・4 林野庁指導部計画課に採用後、熊本営林局申間署・企画調整室、国土庁土地局土地利用調整課、林野庁企画課を経て

平4・4 帯広営林支局上士幌営林署長

〳6・4 林野庁業務第一課企画官

〳7・8 林野庁林政課総務班担当課長

補佐

〳9・10 林野庁造林保全課保護企画班

担当課長補佐

〳12・4 林野庁企画課年次報告班担当

課長補佐

〳14・4 東北森林管理局計画第一部計

画課長

平16・4 林野庁治山課課長補佐（総括）

〳18・8 文部科学省研究開発局海洋地

球課深海地球探査企画官

〳20・8 独立行政法人森林総合研究所

総合調整室長

お世話になりました

前計画部長

川野 康朗

このたびの異動で関東森林管理局森林整備部に勤務することとなりました。私は林野庁職員としての初めての現場勤務が旧長野営林局であり、中部森林管理局でも昔お世話になった方々とも再び仕事をさせていただくことができ、この二年間、充実した日々を送ることができました。職員の皆様には心から感謝申し上げます。

南北アルプスや木曽ヒノキ林、カラマツ林など、我が国を代表する自然環境や観光地、林業地を有する中部局は、いろいろな意味から、全国の国有林の管理経営をリードする組織であり、そこで勤務させていただいたことは、私にとりましても貴重な経験となりました。

特に昨年は国連の生物多様性年ということで、名古屋で開催されたCOP10に合わせて各署等で様々な活動に取組んでいただきましたが、多様な自然環境を有

する中部局においては、それぞれの地域の人々の要望に耳を傾けながら、日々の森林管理を地道に継続していくこと自体が、国土全体の生物多様性を下支えることにつながっているとの思いを強くしたところであり、国際森林年を迎えた今年も、これらの基本スタンスは変わらないものと考えます。

また、今年は森林・林業の再生に向けたスタートの年であり、人材育成等民有林への支援施策も新たな段階に入りますが、私はあらためて目新しいことを行うのではなく、地域の要請に応じた森林づくりを着実に継続していくという国有林としての取組みを、民有林関係者にもきちんとした形で示せるようにすることが基本となるものであり、職員の皆様が、今後とも技術の維持向上に努めていただきながら、それぞれの業務にご尽力いただくことを期待する次第です。

今度参ります関東森林管理局は初めての勤務であり、所属も計画部から森林整備部に移りますが、北は新潟県から南は静岡県まで中部局管内と接しており、木材供給や事業体の育成、あるいは生物多様性保全施策など地域共通の課題も多く、技術面での交流を含めて連携を図っていきたいと考えますので、引き続きよろしく願います。

最後に、安全で健康な職場づくりにより、今後とも職員の皆様が国民のための森林づくりに向けて元気に活躍される

ことを祈念しまして、お別れのご挨拶とさせていただきます。

「国民の森林づくり」 推進功労者へ 林野庁長官感謝状を贈呈

〔総務課〕松本市安曇上高地の宿泊施設などをつくる「上高地を美しくする会」

（会長 青柳 薫）に、「国民の森林づくり」推進功労者として林野庁長官からの感謝状が贈呈され、平成二十三年五月二十五日、中部森林管理局局長室において城土局長から青柳会長に伝達されました。

同会は、昭和三十八年に、上高地及び周辺山岳地の優れた自然環境の保全を図



感謝状を手にする青柳会長を囲んで記念撮影

るとともに、適正な利用を促すことを目的として、ホテルや山小屋、交通事業者のほか関係行政機関も加わり設立されました。

夏から秋を中心として、年十回程度、ゴミの回収・分別及び観光客への啓発活動を毎年実施しており、同会の運動は、山岳地の美化運動の先駆けとして、全国的にも評価されています。

「国民の森林づくり」推進功労者への林野庁長官の感謝状贈呈については、森林づくりや森林環境保全、国産材利用推進に顕著な貢献のあった個人又は団体に對し感謝の意を表するため、平成二十年度から実施され、各森林管理局から推薦のあった取組から本年度は八団体に感謝状が贈呈されました。

飯山市の小中学校へ 森林環境教材用に本を贈呈



〔北信署〕六月一日、飯山市の森林環境教育に活用していただくように、中部森林管理局で作成した「なべくら山の森太郎」（A5判カラー刷り47ページ）の贈呈式を開催しました。

当日は、なべくら高原「森の家」で、嵯峨北信署長から飯山市長に本二千五百冊の目録を、指導普及課長から地元戸狩小学校三年生全員に本を贈呈しました。



飯山市足立市長へ目録を贈呈

戸狩小学校全校生徒は、例年、なべくら山周辺で野外学習を行っており、三年生は本のモデルとなっている「森太郎」が住む「巨木の谷」を散策しています。当署長から「今年は国際森林年です。森林環境を学ぶと共に、森を多く歩き親しんでください。」と挨拶があり、飯山市長から、「市の木は森太郎と同じブナです。本を各学校に配布し、豊かな自然環境の郷土を学ばせていきたい。」と感謝の言葉をいただきました。また、三年生を代表して村松みうなさんからは、「本のプレゼントをありがとうございます。一生懸命学習します。」とお礼の挨拶がありました。

この本は、ブナの巨木「森じい」が少女「あずさちゃん」へ、木が育つ様子や、森の生態系等を語りかける内容と



挨拶する城土局長

このイベントは毎年行っているもので、一九八四年の長野県西部地震災害

「木曽署」五月二十一日(土)から五月二十二日(日)にかけて「2011 未来世紀へつなぐ緑のバトン」を未来世紀へつなぐ緑のバトン実行委員会(王滝村・木曽森林管理署ほか)の主催により開催しました。



なっており、読み進むうちに森林環境が理解できる絵本になっています。近々、市内の全小中学生と各地の図書館や公民館、信越トレイルを訪れる方が利用する民宿等に配布され、森林環境への理解を広げ、人を森に導いてくれることと思います。



森林の整備に汗を流す参加者

(王滝村)によって荒廃した箇所に、緑を再生する運動として、王滝村で拾ったどんぐりの実を下流域の人達に育ててもらい、その苗木を濁沢の荒廃地に植樹する作業を実施したのが始まりとなっています。

今回は、城土局長の出席のもと、国際森林年をモチーフに牧尾ダム愛知用水通水五十周年記念イベントを兼ねて盛大に開催されました。

当日は御岳山がくっきりと遠望できる五月晴れに恵まれ、土石流によって荒廃した濁沢の周囲にナラやカエデ八百本が植樹され、また、治山工事によって見事に復旧した施工地の森林整備を、参加者は汗をぬぐいながら行いました。

今回の開催は愛知用水通水記念イベントを兼ねて行われたことから、愛知県から大勢の参加者があり、森林整備等を通

じた水源地に対しての感謝の気持ちが出され、水源地地域の保全に資する活動を深める「水の絆」宣言がされるなど有意義な開催となりました。

民有林への技術指導がスタート

「森林技術センター」森林技術センター

では、平成二十年度から実施している民有林への技術指導を五月からスタートしました。昨年度から岐阜県建設業協会と岐阜県森林組合連合会の共催による「森林整備技術者養成研修」の講師を派遣していますが、本年度は第一回目を五月九日(十一日(伐木造材編)、五月十二日(路網設計編)に美濃市で実施し、第二回目を五月十六日(五月十八日(伐木造



職員による技術指導の様子

材編)、五月二十日(路網設計編)に下呂市で実施しました。

受講生は、建設業等から今後林業に新規参入するため、安全基準や伐倒・目立て方法等の技術習得に真剣な眼差しで取り組んでいます。路網設計では、技術開発試験地の展示エリアの案内や岐阜県森林管理署中岡署長による座学など技術指導内容の充実・向上に努めています。

本研修の技術指導は最終年度となるため、取り組み等について「林野庁業務研究発表会」に成果報告することとしています。



新緑の定光寺で

「みどりのフェスティバル」を開催

「名古屋事務所」名古屋事務所及び愛知森林管理事務所は、大型連休初日の四月二十九日に瀬戸国定公園自然休養林において、国際森林年記念行事と銘打ち「みどりのフェスティバル」を開催しました。

オープニングでは、竹林名古屋事務所長と岩井愛知所長、山田瀬戸市まるとミュージアム・観光協会事務局長が三組の一般市民の方々と、会場付近の法面にコナラの苗木を植樹しました。



親子連れなど多くの人が新緑を楽しむ



会場にコナラを植樹

本年度は新たに国土防災技術（株）と（独）森林総合研究所森林農地整備センター中部整備局にもご協力をいただき、それぞれ「ドパス」を使ったお絵かきや木のバッチづくりなどの体験コーナーを出展され、来場者で賑わっていました。

また、今回は東日本大震災の被災者支援のため、募金箱を設置して義援金を募り、チエーンソーパフォーマンズによる作品の売上金を加えるなど、多数の来場者からご協力をいただきました。



木のバッチ作りのコーナー也大盛況

会場の運営は、名古屋シティフォレスト倶楽部やフォレストサポーターズにもお手伝いいただきながら、丸太切り、ネイチャークラフト、マイ箸作り、火おこしなどの体験や紙芝居、クイズなどの学習も実施。モリゾー・キッコロも随所で登場して子供たちと握手したり写真を撮ったり、振興会・土木協会・造素協合同テントではお値打ちな木製品の販売や子供たちに大人気のかんな屑プール、お昼には恒例の豚汁が振る舞われ、長蛇の列ができていました。

この他、瀬戸市等定光寺自然休養林保護管理協議会による虫除けスプレー作り、日本ハム（株）によるクイズの他、環境省中部地方環境事務所からは庄内川下流に位置する藤前干潟との関



植樹する穴を懸命に掘る児童

係などを説明しながら、折り紙作りや藤前干潟を守る会によるよしず作りの体験も行われていました。

当日は、やや風が強かったものの好天に恵まれ、近隣の親子連れなど二千人弱が訪れ、のんびりと新緑の定光寺自然休養林でのひとときを楽しんでいました。

木曽森林管理署植樹祭を開催
「国際森林年記念・地域の方との森林散策もく」
「木曽署」 六月三日（金）、小川入国有林において木曽森林管理署植樹祭が開催され、木曽郡内の町村長をはじめとする来賓の方々及び上松町立上松小学校五年生児童ら約百四十名と署職員約七十名が参加しました。植樹会場には、児童らが



植樹を終えて（上松小学校5年生）

事前学習で木の絵や自然への思いをかけた記念碑が建立された後、参加者全員でヒノキ・サワラを中心とした五種の苗木の植栽に汗を流しました。前日までの雨の影響で足元がぬかるむ中、参加者からは将来の豊かな森林の姿を願い、「元気に育ってほしい」などの声が聞かれました。

また、今年二〇一一年は、国連が定めた国際森林年であり、その国内テーマは「森を歩こう」であることを踏まえ、午後からは赤沢自然休養林溪流コース（姫宮ルート）の森林散策を行いました。コースは全長三・七キロメートルと少し長かったものの、参加者は職員からの森林の働きなどについての説明を熱心に聞きながら、全員元気に散策終点の姫宮神社へと到着することができました。

新緑の「田立の滝」を満喫

「田立の滝親子ハイキングを実施」

【南木曽支署】五月二十一日、木曽郡南木曽町田立国有林の「田立の滝」において南木曽町・南木曽支署主催で「親子で歩く新緑の田立の滝ハイキング」を開催し、南木曽町内及び愛知県名古屋市熱田区緑の少年団など約五十名が参加しました。

この行事は、国際森林年テーマ「森を歩く」にちなみ、南木曽町内の景勝地の散策のイベント実施を南木曽町に呼びかけ、田立の滝入山の一般開放を機に多くの人に見ていただくという合同で企画したものです。

当日は、初夏にふさわしい陽気の中、参加者は「田立の滝」主瀑の天河滝までのハイキングや天河滝周辺での川遊びなどを楽しみ、終了後は家族で記念植樹及

び木工体験等を行い、新緑の田立の滝の自然を満喫しました。

参加者からは「田立の滝に初めて来た。滝の落差がすごかった」「山に入っ

てこういった滝があったことにびっくりした」等の感想も出されました。

四月に入山規制を解除して以降、田立の滝には多くの観光客が訪れ、当日も県内外から多くの方が訪れていました。

今後関係機関との連携を大切にしなが

分収造林契約地で 地元住民らによる

国際森林年記念植樹

「郡上市高鷲町鮎立中山国有林」

【岐阜署】

五月十四日（土）、中部森林管理局と日本森林林業振興会名古屋支部



田立の滝を満喫



植樹する参加者

（土川哲夫支部長）との間で今春国際森林年を記念して協定された分収造林契約地で、高鷲小学校児童ほか地元の小中学生や岐阜市のボーイスカウト親子、市内外の林業関係者ら百二十名の参加をいただき、植樹祭が開催されました。

植樹祭は、振興会と岐阜森林管理署が主催し、本年は国際森林年であることから国際森林年関連イベントの一環として計画しました。

開催に当たっては、郡上市役所や高鷲林業グループ等地域の林業関係者と準備を進め、「たかすふるさと植樹祭」と銘打ち、多彩なメニューで行われました。まず、白鳥森林事務所の寺田基幹作業職員による模範伐倒作業では、スギ立木が見事に伐倒されると子供たちから大きな歓声があがりました。

植樹会場では、内藤森林官から植樹方法の説明を受け、ヒノキ苗、五百本を植

え付けました。

昼食をはさみ、高鷲民謡保存会の歌と三味線が山々にこだまする中、踊りを楽しんだり、安江森林ふれあい係長によるミニ森林教室で森の働きを学び、バードコールを作製するなどしました。

快晴に恵まれ、地元との一体感を再認識できた一日となりました。

各地からのたより

北信州植樹祭開催される

【北信署】六月四日、北信州植樹祭が山ノ内町よませどんぐりの森公園で、北信地区森林祭実行委員会（北信林業振興会、地方事務所、森林管理署、当該市町村、森林組合等）の主催で開催されました。

当日は、夏を思わせるような晴天の中、一般参加者やみどりの少年団、各種関係者の約四百名の参加がありました。地元山ノ内町長の歓迎挨拶後、来賓の篠原農林水産副大臣から、「日本は長年の植樹活動により、自国で木材の自給自足が行える程に森林資源が充実している。今後、国産材の利用を進めていきたい。」と祝辞がありました。

式典後は、公園周辺にヤマボウシ、コブシ、ヤマブキ等を植栽し、昼食では、



ヤマブキを植えるみどりの少年団

西小学校のみどりの少年団の活動発表があり、地元特産のリンゴを餌に飼育された「エコ養トン」汁が振る舞われ、食も木材も地産地消が大切と感じながら行事を終了しました。

地元・各種団体と

保全活動の継続を

～阿寺溪谷景観整備作業を実施～

〔南木曾支署〕 五月十一日、大桑村の阿寺国有林阿寺溪谷において、大桑村をはじめ、大桑村議会、阿寺溪谷の整備活動を行っている阿寺ふれあいエコクラブなど三十四名が参加し、阿寺溪谷の景観整備作業を行いました。

この行事は、平成二十一年六月に林木育種センターでさし木増殖をした希少種



雨の中、作業する参加者

ハナノキの里帰りをきっかけに始まり、今年度は林道端から溪谷を見えるように、沿線の雑木の除去作業を行いました。

開会にあたり、相馬支署長から「森林整備等を進めていきながら地域とともに阿寺の山を守っていききたい」、大桑村長からは「阿寺溪谷の注目度は高まっている。大勢の方々に訪れてもらえる癒しの場所としたい」と挨拶がありました。当日は雨が降りしきる中にも関わらず、参加者は慣れた手つきで雑木の伐倒や枝落とし作業に取り組んでいました。

整備後は、林道から阿寺溪谷が安全に見やすくなり、夏場に向け、これから訪れる観光客の目を楽しませてくれることが期待されます。

今後も地元・各種団体と協働し、作業を継続していく中から保全・管理を進めていくこととしています。

「木曾郡植樹祭」

～植樹と森林整備に汗を流す～

〔南木曾支署〕 五月二十八日、木曾郡大桑村阿寺原の「フォレスパ木曾」周辺において木曾地方事務所、大桑村、南木曾支署他主催で木曾郡植樹祭が開催され、愛知県北名古屋市民をはじめ、木曾郡内外から約五百六十名が参加し、ハナモモ四百五十本の植樹と周辺のヒノキ林の除伐作業に汗を流しました。

式典では、大桑小学校みどりの少年団からみどりの宣言がされ、続いて大桑小学校五年生によるヒノキ間伐材を、有効利用し自作した木製コカリナ演奏、また、北名古屋市師勝少年少女合唱団の合唱が行われ、参加者は美しい音色と歌声



ハナモモを植樹

に聴き入っていました。

植樹の終了後、地元小中学生や下流域の住民など参加希望者を対象としたシイタケ植菌作業の体験と阿寺溪谷の散策が行われました。

参加者からは「斜面に植えるのが大変だったけど楽しかった」「立派に育ってきれいな花を咲かせてほしい」等といった感想も出されました。

この行事は毎年、木曾郡下各町村及び地域関係団体との共同で開催され、今年は、木曾地方事務所、大桑村、木曾南部森林組合及び木曾森林管理署、木曾ふれあいセンター及び当支署等が共同で植樹祭の準備や当日の運営を行ってまいりました。

今後も、地域と協働し継続していく中から、このような取組を地域はもとより下流域に情報発信していきたいと考えています。

全国植樹祭五周年記念大会

〔岐阜支署〕 五月二十一日に下呂市萩原町四美の皇樹の杜にて全国植樹祭五周年記念大会が開催されました。

これは、平成十八年に「生きた森づくりを全国に発信する」をテーマに開催された全国植樹祭から五年を経過した同日に、これまでの取組を振り返るとともに、これからの森林づくりについて決意

を新たにしようと開催されたものです。
当日は古田肇岐阜県知事による記念植樹などのイベントが行われたほか、五年前に司会を務められた女優の竹下景子さんも来場し、大会に花を添えていました。



完成した作品を前に



木とのふれあいの場を提供

た。

岐阜森林管理署も木工クラフトのブースを出展し、来場者へ木とのふれあいの場を提供しました。最初は見本に倣って作り始めた子供たちでしたが、次第にオリジナリティ溢れる作品となりその出来映えには目を見張るばかりでした。

今後も各種イベントに参加し、木工クラフトなどの取組を通じて国有林のPRに努めていきたいと思っています。

シリーズ 現場最前線

～新たな気持ちで～

「木曽署福島班」福島班のある木曽福島森林事務所は、木曽谷の中心地に位置する木曽町福島にあり、管轄する区域は、木曽町のうち旧木曽福島町、旧日義村、旧三岳村の国有林約七、七〇〇畝です。

現場は、木曽町福島の里山である城山国有林（標高八〇〇メートル）から、木曽駒ヶ岳（標高二、九五六メートル）、御嶽山（標高三、〇六三メートル）と変化に富んだ山々であると同時に、木曽森林管理署管内では、珍しく小面積の国有林が十二箇所点在しています。

福島班は、平成二十二年度末の定年退職によって一名体制になるところでしたが、班体制の見直しにより、別々の森林



福島班の皆さん

事務所から新たに四名が加わり、平成二十三年度から五名体制となつて出発することができました。

新しい班体制になつて三ヶ月余りが経ちますが、前年度まで別々の森林事務所の仕事をしていたとは思えないほど、日頃から班長を中心にするらしいチームワークで、獣害対策、境界管理、森林保全管理等の作業を安全管理に気を配りながら取り組んでおり、笑い声が絶えない明るい職場で活気に溢れています。

また、福島班では以前から毎朝ラジオ体操を行ったあと現場に向かっており、新しい班体制になつても伝統を受け継ぎ、みんながいつも元気に足取りも軽く現場に向かっていきます。

人のうごき

中部森林管理局人事

六月四日付

▽職務復帰（育児休業終了）総務部総務課付（愛知森林事務所）（局総務部総務課（名古屋事務所）） 遠山 良江

六月十六日付

▽森林整備部治山課付（局森林整備部治山課保安林係長） 稲川 年秋

行事・会議等の予定

◎安全週間

7月1日～ 局署等

◎准フォレスター研修開講式

7月4日 下呂市

◎フォレスターズシンポジウム

7月8日 下呂市

◎名古屋シティ・フォレスター事業

7月8日 東濃署管内

7月30日 富山署管内

◎「いのちの森づくり」植樹祭

7月10日 愛知所管内

◎高山植物等保護対策協議会

7月11日 長野市

◎林業専用道技術者研修開講式

7月11日 下呂市

中部森林管理局の森林・林業の

再生に向けた人材育成の取組みについて

戦後造成された人工林を中心に資

源が充実する中、一昨年十二月に十年後の木材自給率を五十%以上とすることを目的とした「森林・林業再生プラン」が農林水産省において策定され、これを具現化するための検討委員会が設けられ、昨年十一月に「森林・林業の再生に向けた改革の姿」がとりまとめられました。この中では、森林計画制度の見直し、低コスト化に向けた路網整備等の加速化、国産材の需要拡大と効率的な加工・流通体制の確立等に加え、持続的な森林経営を実現するために市町村を技術面から支援・指導するフォレスト（当面は准フォレスト）等の人材育成の重要性が位置づけられ、国有林に対しては研修フィールドや技術を活用した人材育成の推進が求められています。

これらの要請にこたえるために、中部森林管理局では、森林技術センターが中心となり准フォレストの

育成を目的とした研修や、適切な路網を作設するための技術者を育成する林業専用道技術者研修を国有林のフィールドを用いて七月から開始する予定です。これらの研修には、都道府県職員のみならず中部森林管理局の職員も参加し、技術的な支援ができる者を育成し、市町村が市町村森林整備計画を作成する際にその要請等に応じて准フォレストを配置し、支援を実施することとしております。

◎スケジュール

7月4日 准フォレスト研修開講式

7月8日 フォレストーズシンポジウム

7月11日 林道専用道技術者研修開講式

准フォレスト研修

・第一グループ

7月4日～8日

9月26日～30日
・第二グループ

7月18日～22日

10月24日～28日

・第三グループ

8月1日～5日

11月7日～11日

林業専用道技術者研修

・第一回

7月11日～13日

・第二回

8月8日～10日

・第三回

10月3日～5日

・第四回

10月31日～11月2日

◎主な研修の内容

准フォレスト研修

・森林・林業再生プランの概要

・准フォレストの役割

・市町村森林整備計画の概要

・森林施業の集約化（提案型集約化施業）

・ゾーニングと森林施業の考え方（望ましい森林の姿、施業方法）

・路網と作業システム

・森林施業の実行管理演習

・森林施業検討会

・仮想集約化団地の現地踏査

・市町村森林整備計画実習（ゾーニング）

林業専用道のイメージ（木曽署：白川支線林道）



- ・森林整備企画実習（路網整備等効率的な施業構想の策定）
- ・市町村森林整備計画（案）によるワークシヨップ
- ・森林施業における労働安全
- ・木材流通・販売
- ・森林経営計画の概要
- ・森林経営計画作成演習
- ・林業専用道技術者研修
- ・林業専用道作設指針等の概要
- ・森林施業、作業システムに関する基礎知識と配慮すべき留意点
- ・林業専用道の調査設計
- ・林業作設技術



旗拳天満宮（平家追討旗拳の地）

木曾義仲公ゆかりの地

「木曾署」木曾義仲（幼名・駒王丸）は、約八百年前の平安時代末期の武將で、河内源氏の一門、源義賢の次男で一一五四年に誕生した。源頼朝・義経とは従兄弟にあたる。



父義賢は、叔父との対立によって討たれ、当時二歳の駒王丸にも命の危機が迫るが、畠山重能らの計らいで信濃国木曾谷（現在の長野県木曾郡木曾町）に逃れ、中原兼遠の庇護の下養育され十三歳で元服、木曾次郎義仲と名乗った。

一一八〇年四月、後白河法皇の第三皇子、以仁王が全国に平氏打倒を命じ、八月に伊豆で頼朝が、九月に信濃国で義仲が挙兵し、各地を転戦した後、一一八三年五月富山・石川県境にある倶利伽羅峠で、平維盛と激突圧勝し、七月末平家一門は都落ちし、義仲は比叡山にいた後白河法皇を保護して京に入った。

都の人々は傲慢な平家を追い出してくれた英雄として義仲軍を喝采で迎え、東方（木曾）から日の出の勢いで上洛した義仲を朝日将軍（旭将軍）と讃えた。

一一八四年一月、従四位下、征東大將軍に任ぜられる（義仲が自ら任命させたとも言われている）が、同月源義経などが率いる鎌倉軍に討たれ、近江国粟津（滋賀県大津市）で最期を迎えた。

義仲は「信濃の国」（長野県歌）に、県出身者の一人として詠われている。また、義仲が育った木曾郡日義村（平成十七年十一月一日から木曾町日義となり消滅）は、「朝日将軍義仲」に由来し明治七年に命名された地名である。

（参考文献：「木曾義仲のすべて」鈴木彰・樋口州男・松井吉昭編著）



林昌寺（中原兼遠の菩提寺）



德音寺（一族の菩提寺）



義仲館（資料館）

◆義仲館へのアクセス方法

「公共交通機関」

JR 中央本線宮ノ越駅下車徒歩十分
「自家用車」

中央自動車道中津川 IC 〓 国道十九号線經由約一時間四十分、長野自動車道塩尻 IC 〓 国道十九号線經由約四十分

県歌 信濃の国 浅井冽作詞（一部）
旭将軍義仲も 仁科の五郎信盛も 春台太宰先生も 象山佐久間先生も 皆此国の人にして 文武の誉たぐいなく 山と聳えて世に仰ぎ 川と流れて名は尽きず